

発達障害を持つ子のための防災教材の開発と指導方法の研究

堀清和(兵庫医科大学 公衆衛生学 研究員)

1. 研究の概要

(方法)

本研究は、概ね研究計画のスケジュールに沿って発達障害児の防災教育の方法の研究と教材の開発、普及活動を行ってきた。障害児者の保護者および全国の小中学校を対象に調査を実施し、調査結果に基づき教材を試作し、開発した教育プログラムのワークショップを障害者支援施設および小学校で実施した。ワークショップを実施した放課後等デイサービス施設で毎月一回教育プログラムを実施してもらい、各月の子どもたちの変化を記録した。また、教育実践を行った小学校の教員から、教育実践2か月後の子どもたちの変化を聴取し、教育効果を検討した。

(結果)

軽度および中程度の障害のある児童は、意識や行動面など全般的に教育実施後に良い影響が見られた。特に、軽度の児童では行動面での大きな変化が現れた。同様の傾向は8月に実施した2つの施設での教育実践でも見られた。重度の自閉症児は、語彙がもともと少ないため語彙面的確な行動を取ることが難しいことがうかがえる。一方で、防災カードに対する興味は軽度の子よりも非常に高く、長時間カードを眺めて絵や文字を覚えていたとの報告があった。同様の傾向は防災カードを提供して反応を観察してもらった障害者支援施設においても見られ、重度の自閉症児は防災カードへの関心が非常に高かったとの報告を得た。このことから、重度の自閉症児の防災知識学習および意識の向上では、防災カードの利用は効果的であると考えられる。課題として「気持ちを伝える」「たすけてを伝える」など災害時に重要となる行動スキルを重度の障害児に獲得させる手法についても検討を深める必要があると考える。実践研究を通して得られた知見は日本安全教育学会および日本教育保健学会において発表した。

2. 研究の成果

成果物として、防災教材「たのしくまなぶぼうさいカード」を1000部作成し、協力校および協力支援施設、支援団体および所属する会員(障害児者の保護者)にカードを配布し、好評を得ている。また、防災カードの内容をネット上で学習できる障害児向け防災教育ツール(β版)を開発し、支援者および保護者に利用してもらい、好評を得ている。本助成研究の教育方法はメディアにも注目され、2014年11月および2015年2月に実施した支援施設での教育風景がテレビ取材を受け、2015年3月11日ABC放送「キャスト」(18:15~)内の震災報道特集(障害児への防災教育)において、約15分間放映された。

(カード表面)



(カード裏面)



3. 残された課題

成果物として作成した防災カードは、障害のため字が読めない子、文章が理解しにくい子、或いは、想像力の欠如の特性からイラストを見ても内容が理解しにくい子など、指導の仕方によってさまざまな特性の子に柔軟に対応できると概ね好評であった。しかし、指導経験の浅いスタッフや教員は、教える内容以前にどのような配慮が必要かという点もよくわかっていないことが多く、教育方法の開発と並行して、各種障害に必要な配慮や指導方法の手引きが必要であるとの意見も寄せられた。また、指導経験は豊富でも、今まで接したことのない障害については指導に不安を覚えるとの意見もあった。このような指摘を受けて、今後は、障害の程度や障害の特性別に必要とされる指導方法の研究およびその普及活動を併せて行っていく予定である。